走れメロス (4)

太宰 治

(妹の結婚式を終え、メロスはシラクスの町に向かって走り出しました。しかし川の氾濫や山賊に遭い、疲れ切って動けなくなってしまいます。)

私は精いっぱいに努めてきたのだ。動けなくなるまで走ってきたのだ。私は不信の徒ではない。ああ、できることなら私の胸を断ち割って、真紅の心臓をお目にかけたい。愛と※信実の血液だけで動いているこの心臓を見せてやりたい。けれども私は、この大事なときに、①精も根も尽きたのだ。私は、よくよく不幸な男だ。私は、きっと笑われる。私の一家も笑われる。私は友を欺いた。中途で倒れるのは、初めから何もしないのと同じことだ。ああ、もう、どうでもいい。これが、私の定まった運命なのかもしれない。セリヌンティウスよ、許してくれ。君は、いつでも私を信じた。私も君を欺かなかった。私たちは、本当によい友と友であったのだ。一度だって、暗い疑惑の雲を、お互い胸に宿したことはなかった。今だって、②君は私を無心に待っているだろう。ああ、待っているだろう。ありがとう、セリヌンティウス。よくも私を信じてくれた。それを思えば、たまらない。③友と友の間の信実は、この世でいちばん誇るべき宝なのだからな。セリヌンティウス、私は走ったのだ。君を欺くつもりは、みじんもなかった。信じてくれ!私は急ぎに急いでここまで来たのだ。濁流を突破した。山賊の囲みからも、するりと抜けて一気に峠を駆け降りてきたのだ。私だからできたのだよ。④ああ、このうえ、私に望みたもうな。放っておいてくれ。どうでもいいのだ。私は負けたのだ。だらしがない。笑ってくれ。王は私に、ちょっと遅れて来い、と耳打ちした。遅れたら、身代わりを殺して、私を助けてくれると約束した。私は王の卑劣を憎んだ。けれども、今になってみると、私は王の言うままになっている。私は遅れていくだろう。⑤王は、独り合点して私を笑い、そうしてこともなく私を放免するだろう。そうなったら、私は、死ぬよりつらい。私は、永遠に裏切り者だ。地上で最も不名誉の人種だ。セリヌンティウスよ、私も死ぬぞ。君と一緒に死なせてくれ。君だけは私を信じてくれるにちがいない。いや、それも私の、独りよがりか? ああ、もういっそ、悪徳者として生き延びてやろうか。村には私の家がある。羊もいる。妹夫婦は、まさか私を村から追い出すようなことはしないだろう。正義だの、信実だの、愛だの、考えてみればくだらない。人を殺して自分が生きる。それが人間世界の※定法ではなかったか。ああ、何もかもばかばかしい。私は醜い裏切り者だ。どうとも勝手にするがよい。※やんぬるかな。——※四肢を投げ出して、うとうと、まどろんでしまった。

※信実…正直で偽りのないこと、誠実な心。　定法…きまった法則。
やんぬるかな…やみぬるかな。今となってはどうしようもない、もうおしまいだ。
四肢…両腕と両脚。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「精も根も尽きた」とはどういうことか。適当なものを選びなさい。

ア　疲れ果て、精力も気力も失った。
イ　全力を尽くし、精いっぱい努力した。
ウ　いろいろ試(ため)したがやりようがなかった。

〔　　〕

(2) ――線②「君は私を無心に待っているだろう」とあるが、メロスはセリヌンティウスがどのように待っていると考えているのか。適当なものを選びなさい。

ア　メロスが苦労していることも知らず、のんきに待っている。
イ　メロスが本当に帰ってくるか心配で、不安げに待っている。
ウ　メロスが帰ってきてほしいと、祈(いの)りながら待っている。
エ　メロスが帰ってくることを信じ、ただただ待っている。

〔　　〕

(3) ――線③「友と友の間の信実は、この世でいちばん誇るべき宝なのだからな」とあるが、この考えを否定している一文を探し、最初の三字を答えなさい。

□□□

(4) ――線④「ああ、このうえ、私に望みたもうな」とはどういうことか。適当なものを選びなさい。

ア　これほど努力したのだから、これ以上は望まないでほしいということ。
イ　もう間に合わないかもしれない状況(じょうきょう)なので、何か希望がほしいということ。
ウ　自分だからこそ困難を乗り越(こ)えられたので、王に望みを聞いてほしいということ。

〔　　〕

(5) ――線⑤「王は、独り合点して私を笑い」とあるが、メロスは、王がどのように考えてメロスを笑うと考えているのか。適当なものを選びなさい。

ア　困難に疲れ切って、メロスは遅れてきた。
イ　自分が助かりたくて、メロスは遅れてきた。
ウ　精いっぱい努めたけれども、メロスは遅れてきた。

〔　　〕